

聴力の低下を早く発見することで、適切な治療や教育的な配慮ができるようになります。ご心配がある場合には、以下の機関へご相談ください。

新生児聴覚スクリーニング後の精密聴力検査機関

- 北海道大学病院耳鼻咽喉科(完全紹介制)
〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目
- 札幌医科大学附属病院耳鼻咽喉科
〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目291 ☎611-2111 (内線3515)
- 北海道立子ども総合医療・療育センター(コドモックル)※電話で予約
〒006-0041 札幌市手稲区金山1条1丁目240番6 ☎691-5696 Fax691-1000
- 耳鼻咽喉科麻生病院
〒007-0840 札幌市東区北40条東1丁目1-7 ☎731-4133 Fax731-4986
- 厚別耳鼻咽喉科病院
〒004-0065 札幌市厚別区厚別西5条1丁目16-22 ☎011-894-7003 Fax 011-894-7005
- とも耳鼻科クリニック
〒060-0061 札幌市中央区南1条西16丁目1-246 ANNEXレーベンビル2F ☎011-616-2000 Fax 011-616-2180

子どもの聞こえについて相談できる専門的教育機関 ()内は担当区/相談は無料です。

- | | |
|----------------------|---|
| 全年齢 | ○北海道札幌聾学校(全市) ※乳幼児の教育相談も受けます
〒001-0026 札幌市北区北26条西12丁目 ☎716-2979 Fax758-7617 |
| 小学校 | ○札幌市立中央小学校 きこえの教室(手稲・西・中央・南区)
〒060-0041 札幌市中央区大通東6丁目12 ☎241-2533 Fax261-5723 |
| 幼児の
教育相談も
受けます | ○札幌市立幌北小学校 きこえの教室(北区)
〒001-0019 札幌市北区北19条西2丁目 ☎747-6797 Fax716-0944 |
| | ○札幌市立南郷小学校 きこえの教室(豊平・清田・白石・厚別区)
〒003-0024 札幌市白石区本郷通4丁目南3-1 ☎863-0863 Fax861-9527 |
| | ○札幌市立元町小学校 きこえの教室(東区)
〒065-0025 札幌市東区北25条東17丁目 ☎781-2194 Fax783-8101 |
| 中学校 | ○札幌市立中央中学校 きこえの教室(北・東区を除く全市)
〒060-0034 札幌市中央区北4条東3丁目 ☎241-5080 Fax241-6359 |
| | ○札幌市立北辰中学校 きこえの教室(北・東区)
〒001-0018 札幌市北区北18条西2丁目 ☎716-6201 Fax716-4172 |

このチラシは、「さっぽろ子どもの聞こえ相談ネットワークを作る会」が作成しています。

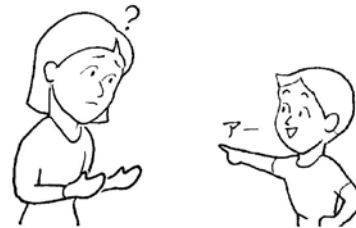
ホームページ <http://kodomonokikoe.net>

お子さんの聞こえのチェックをしてみませんか？

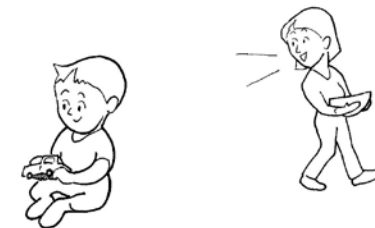
耳が聞こえていることは、お子さんの成長のためにとても大事。

①～⑥の「聞こえのチェック項目」で、チェックしてみましょう。

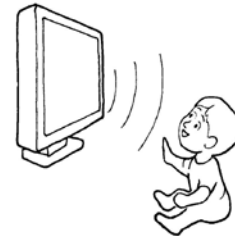
①2歳になっても、意味のあることが出ない。



②名前を呼んだときに、振り向かないなど、反応がないことがある。



③テレビの音を大きくする、または近づいて聞くことがある。



④身ぶりをに入れて話さないと、伝わらないことがある。



⑤子どもの耳が聞こえにくいのでは、と思ったことがある。



⑥親戚や先生から、「聞こえにくいのでは」と言われたことがある。



もし、当てはまれば、聴力が低下している可能性があります。

軽い聴力低下は見つけにくい

⑦からは、3歳以上のお子さんの「聞こえのチェック項目」です。

- ⑦ 会話の中で、反応がない、または聞き返してることがある。
- ⑧ ささやき声で話すと、わからないことがある。
- ⑨ ことばが遅れているのでは、と思うことがある。
- ⑩ うまく発音できない音がある。例 サカナ → チャカナ
- ⑪ ことばがはっきりしない。こもったような声で話している。
- ⑫ 状況に合わない大きな声、または小さな声で話することがある。
- ⑬ 話している人の顔を見ながら、話を聞くことが多い。

もし当てはまれば、軽度の聴力の低下がある可能性があります。口を見せずに、ささやき声で話しかけて、聞こえを確かめてみましょう。



片耳の聴力低下は見つけにくい

- ⑭ 左右どちらかの耳で電話の音声かわからないことがある。
- ⑮ 話しかけると、どちらかの耳をこちらに向けることがある。
- ⑯ まわりがうるさいところでは、話が通じにくいことがある。

もし当てはまれば、片方の耳の聴力が低下している可能性があります。指をこする音で、左右の耳の聞こえを確かめてみましょう。



！チェック項目のいずれかに当てはまったら

ささやき声や、指こすり音を使って、聞こえを確かめてみましょう。ホームページ「こどものきこえ」の中で「家庭でできる聞こえの検査」として、「ささやき声検査」や「指こすり検査」の方法をビデオで紹介しています。ささやき声と指こすり音の出し方がわかります。また、耳鼻科医や次ページの専門機関にご相談ください。

！聴力低下は他の問題と思われやすい

実際には、「ことばが心配」と保護者の方に思われることが多いです。また、「発達障がい？」と思われることもあります。ことば？ 発達障がい？ と思ったら、聞こえのチェックをしましょう。

！新生児聴覚スクリーニングにパスしても・・・

生まれた時の検査でパスしていても、病気や薬によって、後から聴力が低下することがあります。パスしていても、聞こえのチェックは必要です。

！中耳炎を軽く考えないで

中耳炎による一時的な聴力低下でも、ことばの育ちに影響します。また、中耳炎を繰り返すと、慢性的な聴力低下につながります。中耳炎に罹ったら、軽く考えないで、治るまでしっかり治療しましょう。

詳しくは、当会のホームページをご覧ください。

<http://kodomonokikoe.net> 携帯でも見ることができます→



さらに詳しいことは、日本耳鼻咽喉科学会作成のリーフレット「難聴を見逃さないために—1歳6か月児健康診査および3歳児健康診査—について」をご覧ください。

ホームページは「難聴を見逃さないために」で検索してください。